

かにキモを冷やす場面もありながら成功！これによってデジタルカメラの画像データを東京のホームページに即日送信できることになりました。ホームページにアクセスすれば、誰でも現地の雰囲気リアルタイムに見てもらえることができます。繋がったときは「おっしゃあ」と独り叫びました。手間、暇、費用は掛かります。ここまでやる必要は無かったかもしれませんが、こんな使い方こそインターネットの利用法としてポジティブな一要素として考えますし、滅多にない機会ということもあるので挑戦することに決意した訳です。しかしこの画像連日中継の試みは、やがてWCC98参加者間の話題の一つになっていきます。さて入浴。日本人にとっては馴染めない、あのバスタブに無理矢理肩までつかりつつ、言葉の通じなさに痛感を抱きました。「やはりたった独りでこんな旅行は難しかったのではないか？既にここまでで結構マゴマゴしながら来てるしなあ...誰ともお話できずに終わるのか？廻りが楽しそうにしているも自分だけは溶け込めないのか？楽しくないままに終わるのではないか？」思わずナーバスな気分。グッと寂しくなる。目線の便器がまた妙に悲しい気持ちにさせました。「いや！それならそれでいい！自分はこのイベントの視察に来たんだ。こういうイベントをOCCでもやってみたいと思ってるんだ。その為にイベントのプログラムや時間取り、動線などをチェックできればいいのさ。それをこの旅の成果として持って帰ればいいじゃないか。言葉が解らなきゃ話しなければいいのさ。」とベットの上で気を取り直す事に成功し、アメリカで初めての夜...眠りへのスタートフラッグを振ったのです。

第一日目の奮戦記
#####

翌日は目覚ましをセットした6時30分よりも30分早く自然に目覚めました。すぐにインターネットへアクセス、三重支部や大阪支部の掲示板で皆さんの反応を確認する。驚いてる人、喜んでる人、上々だ。よかったよかった。9時にゲイリー氏と初対面！思ったより年上の人だ。ふくよかでやさしそうな人当たり。息子さんのアレックス君は9歳。奥さんのメイと数人のボランティアスタッフの方々会場準備と一緒に見られています。《タベはよく眠れた？》とその他何事かをにごよごよ...。(^^?)会場準備が着々と進む中、暇な僕はアレックス君を捕まえてパソコンの翻訳ソフトを使い、色々とおしゃべり。そこに迷彩服を着たえらくガタイのいい中年男性と若い女性のお二人が現れました。《ウイスコンシン州軍のビル軍曹とメイリー軍曹です。》とゲイリー氏の紹介。《よろしく》《よろしく》事前のFAXで州軍がアメリカ軍用車両「ハマー」(超ワイドなジープ)のオープンバージョン「ハンビー」でイベントにエントリーするということを知っていたので「ああ、このお二人がその担当なのだな」と直ぐに解った。お二人の軍曹はいそいそとスタッフのお手伝いを始めました。表に出て早速「ハンビー」を視察。やあかっこいいモンだな。と思いつつ、ポチポチとエントリー車両が駐車場に参集し始めていることに気付きました。これまた事前のビデオやチラシでお見受けしたとおり、アメリカ車で古い型そしてご年輩が多いという事も目の当たりに実感。数時間後、懇談会会場にてエントリー受け付けが開始。会場にはゲイリー氏が持参したOCCビデオ(OCCのイベントをパソコンで加工した物。飯田作成。)が上映された。それは以前私が日本から郵送したものだが、今回は私がパート2を日本より持参。これも進呈しました。アメリカ人は甘いものが好きと聞いていたがホントにそうだった。受付机には飴が置かれていたが、OCCビデオを見て喜んでいて車椅子のおじさんは何個も食べてしまっていた。しかも包み紙を物色し、いちいち味を選んでいった！他にも大の大人達がどんどん飴を持っていく。日本人ではこんなこと無さそだなあ...。往路の飛行機の中で出てきた直径5cmはあるタルトの舌にジンジンくる甘さ、スーパーに置いてあるホットケーキ用シロップのでかさもたまげました。おっと、ビデオは好評でしたよ。やがて会場が満杯になりかけ、改めてみると顔ぶれは老夫婦、3~4人の家族連れ、親子そんな雰囲気が多いようです。30~40代の壮年夫婦や単独者は随分少なく感じました。ことフリー男女比と若年齢層ではじゃばんOCCの方が多いですね。私は外と会場をうろうろと行き来、その内腹が空いたのでタベのスーパーマーケットに行って中のデリカテッセンで昼食をすませました。WCC98の日程はこうです。

13日：エントリーの受け付け。配布されたオリジナルバッグの中にはエントリー車の名簿、スタンプラリー用の台紙、記念プレート、オリジナルTシャツ。ウシスコンシン州の観光案内。なんとエントリー者名簿には“インターナショナルゲスト”として“Masaaki Iida Japan Tokyo”とあった。ちゃんと登録料払ってるんだから当たり前か...。そして夜は会場で余興大会。

14日：五大湖のスペリオール湖を目指し、数百マイルの道のりを長駆する。ただ走るだけではなく、所々カフェやみやげ物屋のような処にチェックポイントがあり、立ち寄るとスタンプを押してもらえる。これを全て押してもらおうと、ステキなプレゼントが当たるくじ引きに参加できる権利がもらえる。というのは後で知った。

15日：スペリオール湖周辺にコースが設定されている。メインはフェリーで対岸に渡り、ここのビレッジで自由に散策をするという。前日同様、夜のレセプションに間に合えば寄り道OK、時間も自由気ままにどうぞ。というノリだ。夜は街から皆で一斉にパレード走行をしつつ、山の中腹にある芝居小屋(テント)に見に行く。

16日：最終日。午前中に解散予定？



OCCメンバーでは一台しか在籍していないキャデラック・アラントも5台程参加していた。

休憩後、帰ってくるといよいよ参集している車の台数はピーク！それら車の種類はホントに色々、予想通りOCCの雰囲気そっくりにごうごく感激した。ナンバープレートを探見するとウイスコンシンが一番多く、ミネソタ、オハイオ、イリノイの辺りがよく見受けました。ハンビーのビル軍曹はテレビジョンの取材に応じてます。軍曹に名刺を渡し、OCCの説明をすると《ジョウトウ！ジョウトウ！》と言った。どうやら誉めてくれているらしい。《君もハンビーに乗せてあげるから！》だって。わー嬉しい。o(∩)o 《イダはビール好きか？ビール、飲もう！》とホテルのバーでビールをおごってくれた。彼は佐世保、横須賀などに駐在歴があり、それでもって日本語が若干？できる模様です。《日本の

女の子、好きだよ。ウヒヒ。》なのだそうです…。やがてゲイリー氏は期間中、移動の際に車に同乗させてくれる 面子を紹介してくれた。ダグラス47歳、歯医者さん。住まいはシカゴの近所。スティーブ33歳、フリーのコンピューター関係の仕事をしている。最近日本でも流行ってるSOHOスタイルだね。そしてポップ。なんと82?83?歳のコルベット乗り。他にもコルベットだけを2台お持ちなのだそうです。というお三方。そして夕暮れどき、ホテルの駐車場で写真、デジカメ、ビデオと撮影にいそしんでいると、駐車場に入ってくる赤い車。何やらカッコいい。おお!三菱「GTO」のオープンじゃないか。日本じゃ売ってないよこれ!あ、乗ってるのはダグラスさんだ。《すこしお散歩しよう》らしき事を言っているようです。《OK!》《何処か行きたいところはある?》《川沿いへ行ってみたいな。》《じゃあ、ホテルのフロントで聞いてくる。この辺は来るのが初めてで、よく判らないんだ。》GTO...(今マンガやドラマでやってるけど関係ないよ)三菱の重量級スポーツカー。3000CCのツインターボ。6速マニュアル。後で聞いたところUS仕様320馬力。ロールバーや三角窓も無い、個人的には一番好きな仕立てだ。やがて車が走り出すとエキゾーストも佳い音。風の巻き込みも気持ちのいいレベルだ。フロントウィンドウは比較的前端寄りのセットになっていて、非常に開放感が高い。手前味噌ながら愛車エランに乗りごちがよく似ていると感じた。まあパワー面では比ぶべくもないですが…。《この車は幾らですか?》《正直で\$60000》《うっひゃ〜》日本円で850~900万円かあ。《でもあまりにも売れていない車種なので\$37000で値切った》それって、それって…。そして手近な河畔に到着して車を降りてお散歩しながらいろんな事をお話しました。《明日の晩はこの公園でカントリーミュージックのコンサートがあるんだそうだよ。でも僕らは見られないね。明日は宿が違うから。》ダグは前夜祭?で賑わうテントでビールをおごってくれた。乾杯。《ダグはカラオケはする?》《イヤ、しないよ。イイダはWCCの為だけに、初めてアメリカの来たのかい?へー、そうか。》《シカゴの夜景は綺麗だって聞いているよ、ダグ。でも残念だけどシカゴは朝、飛行機の乗り換えに通るだけだから見れないのさ。》《じゃあさ、僕が最終日にシカゴまで送ってあげるよ。》車中ダグは英和辞典を手にしながら、ところどころ日本語単語を交えながら話しかけてきました。なんとそれはゲイリー氏に引き合わせてもらった後に本屋で速攻、買って来たのだそうです。テープ教材と一緒に…私の為に。《ありがとう、考えておくれよ。》ダグとの会話は不思議なものでした。拙い私の会話を比較的良くヒアリングしてくれて、なおかつ彼の言ってる言葉が分かりやすいのです。私の言ってることを理解してくれず、そちらの話していることにも判りにくい人と分かれたことは2日目目で気付くことになりました。他の人が言って判らないことを、ダグに言い直してもらいと判るなんて変なこともありました。《自分は仕事柄、フランスへ留学したことがある。だから異国語が旨くできない人の気持ちというか言葉を汲み取ることができるともかもしれないね。それにゆっくり喋るし、難しい俗語を使わないでしょう。例えば!なんてね。》と後日のドライブ中に話してくれました。夜、ホテルではホールで予定の説明のようなものを行い、それが終わると芸人(コメディアン)がやってきて舞台上で何やら空騒ぎを始めました。日本で言うところ松本ハウスかネプチューンか?ドタバタの演芸を繰り広げていました。皆さん、よく笑ってます。アメリカテレビで見る(聞く?)ようなあの高笑いが眼前に!ショーの最中は席を外し(何言ってるか解らないし)部屋でホームページ用の画像を準備していました。入浴も済ませ、下へ降りるとショーは終了して、ホテルのバーでWCC98参加者が沢山たむろしてました。何故判るのかって?なんせWCC参加者は皆、胸に名札を付けているんですもの。もし会話ができればこの輪の中に入って行って、じゃんじゃんいろんなこと喋るのになあ、残念だなあ。ダグやその他一部の参加者達は自分の宿泊するホテルへと帰参しました。何せ人数が多くて一ヶ所のホテルに泊まれないんですものね!ダグはシカゴまで送ってくれてるか...。日本を発つ前は知らない人に注意しろよ、と色んな方からご忠告いただいていた。正直言って恐かった。信用していいのかなあ?でも、もし自分が接待するならばきっと自分もそうしてるな。名刺ももらった。WCCに参加する人間は身元を申請して登録しなければいけない。ゲイリー氏にきちんと伝えさえすれば問題も無かるう...。よし、明日はそれを頼もう。今日の分のデジタルカメラ画像をOCCホームページへの転送も終えた...。明日はいよいよ長距離ドライブだ。あっ今日は思ったより沢山お喋りできた!夕べに比べて不安が取れて、なんて気持ちウキウキしているんだ!ベッドに横になり、明日から始まる旅への期待に心地よい興奮を感じながら、第二夜目眠りへのギヤを一速に入れていきました。

ダグラス氏のMITUBISHI 3000GT。最終日にはドライブさせてもらうことになります。《日本名はGTOって言うんだよ。》《ジー・ティー・オー?アメリカはダッチ・ステルスさ。》



アメリカ軍軍用車両「ハンビー」



はい、ビル軍曹。4?歳。



ビル軍曹とメイリー軍曹。彼女は若干21歳の軍曹だ。最終日にTシャツを記念に頂く。ビル軍曹に何か一言書いて欲しい。とお願いし、背中にシャツを載せてがんだ。私の背中の上で一言書いてくれたが、その様子を見て周囲のみんなは爆笑していた。その時のサインはタイトルのモチーフにしています。

《イイダ、君の英語はうまいな。何で覚えた?》
《No、No、全然だよ。高校で習ったきりさ。後は音楽、映画かな。ところでダグはWCCは何回目?》
《2回目だよ。一昨年が1回目だったんだ。》それからお互いの仕事のことや趣味のこと。河ではネイティブ・アメリカン(インディアン)の子供達のはしゃぎながら泳ぎに興じていた。夕暮れの河畔...

#####

第二日目の奮戦記

#####



翌朝はまた6時に目が覚めました。既に駐車場で出発準備や車見学をしている参加者がいます。242台のオープンカーは4つのグループに分かれ、目的地に向けて走り出すのです。まとまって走る必要はないのですが、そうでもしないと駐車場に全部は収まりきれないし、警察の許可やらちょっとした渋滞からくる近所迷惑など問題があるのでしょうか。しかし242台の車両はここからスタートするのです。第一グループは8時30分の出走。ダグと僕は第二グループ、9時の出走です。《おはよう、イイダ。夕べはよく眠れた？朝食はとった？》《大丈夫。ところで16日はシカゴまで僕も一緒にいいかい？もしいいならホテルの予約を一泊分キャンセルしなきゃ》《ああ、いいよ。キャンセルは僕がホテルに話をしよう。》荷物をMITUBISHI 3000GTに積み終え、第一グループの出走を眺めながら

撮影をする。ビデオやカメラを向ける。《やあ！おはよう！》《ハ～イ！》顔を見て快く挨拶してくれる人が実に多かった。嬉しかった。早速OCCホームページ・アドレスの入った名刺を配りながら挨拶に一生懸命応えます。《アメリカは初めてです。WCCの為に来ました。》ビル軍曹にも挨拶！彼は夕べ3時間しか寝ていないとのこと。お気の毒に、飲み過ぎ？やがて自分のグループが来ると車に乗車して一列に並び、待ちます。一台づつ30秒間隔程でチェッカーフラッグが振られスタートしていくのです。スタート地点（駐車場出口付近）では古典的カントリーロックで

《Waik Up! Waik Up! ほにゃらら、ほにゃらら》という歌詞の音楽が陽気に流れていきます。WCCは、出発時の曲はこれがお好きなようです。何故ならこれは明日の朝も聞くことになったからです。いよいよMITUBISHI300GTがスターラインに並びました。ドキドキ。スタートっ！チェッカーフラッグが振られ、Vow!という野太いエキゾーストと共に車は公道へと滑り出しました。アメリカの道はどの様な道が広がっているのでしょうか？与えられたロードマップを元に走っていきます。ちょびっとしか私は読めないで、ナビゲーターの役には立ちません。ごめんねダグ。しばし、のどかな市街地を走りました。そこで昨日から気付いていて、不思議に思っていたことをダグに質問しました。《昼間なのに何故、車がライトをつけて走っているの？》《あれは事故回避のためだよ。あとGMやフォードなんかの一部の車両は、エンジンを付けると自動的にライトがつくやつもあるんだ。》《へー日本じゃ昼間は絶対つけないね。トンネルの中以外は雨でも昼間はほとんどつけないよ。》意外な風習ですね。30分も走るとやがて市街地を抜け、開けた大地に出ました。そしてハイウェイに乗りました。有料道路もありますがアメリカのハイウェイの大部分は無料なのです。ダグはびゅんびゅん飛ばし、先行車をどんどん抜きます。一生懸命撮影する僕。天気は快晴！気分いい！湿気が超える日本の夏と比べ、アメリカの夏は乾燥していてさらっとしている。などとは何回か聞いたことのある事だったので「おー、これがそうなんだー」と体感することができたのです。午後、一番暑い筈の1時～4時（by電子ちゃん）も汗で肌がにじむことを知らず、随分と快適なものでした。でも暑いんです。初めて体感する不思議な気候でした。だからアメリカは深刻な山火事が多いの？僕は日本から持参したお気に入りのCDをダグにかけてもらい、気分良く声高らかに歌っていました。ダグはここにこしています。アメリカの道…。風景はとても開けています。日本はとても山の多い地形なので、高速道路からも山並みが見える景観が多いと思います。この辺りは平地の土地ですから小高い丘があっても、中央高速の信濃路や東名高速の秦野中井のような峰々の景観を見ることは全行程中一切ありませんでした。そうですね。行ったことはないのですが、北海道の草原の道っていうのはこんな感じではないでしょうか？真っ直ぐな道の割には、小高い起伏が沢山あつたりします。起伏頂上から先の状況が見えないので、この様な道は気をつけないとイケません。また、何よりも違和感があるのが右側通行だということでしょうか。でも日本の左側通行で乗る左ハンドルよりは安心感がありました。左側通行、左ハンドルの助手席は対向車とすれ違う感覚は、なまじっか免許を持っていると自分の運転感覚というものがあるのがあって怖いものです。しかしアメリカでは右側通行、追い越し車線は左側。うむ、これなら自然だな。あとは渋滞がありませんでした！唯一、最終日夜にシカゴに入る手前で若干混んだくらいで、大規模な渋滞という不名誉な体験には遭遇せずに済みました。



車もベアルックもピンクのコーディネイトの老夫婦。きっと70～80歳の方。



走り始めて2時間も経ったでしょうか？やがて、空に雲が陰りをさし、ポツリポツリと水滴がフロントウインドウに！そしてとうとう大スコール！周辺にいた他のWCC車も屋根を締める始末。ああ残念。雨～、あ～め～、やめよっ、やめよっ！晴れ男の俺様がアメリカにいらしてるんだぞお、と念じつつ第一チェックポイントの湖畔に着く頃は全くのピーカンが戻っていたのでした。おそろべし、アメリカの気候。そしてこの後は終日天気恵まれることになったのです。第二チェックポイントでダグの車と別れ、ポブじいさん（敬愛を込めてこう呼ばせて頂く）のゴルフに乗り換え。困ったことにポブじいさんには、わたくしのでたらめ英語はかなり通じなかった。（笑）それでもダグとの会話で調子に乗っていた私は随分いろんな事を聞きました。仕事のこと、息子さんのこと、第二次大戦ではニュージランドにいったこと。彼の車はINDY500でペースカーを務めたこともあるとか。日く付きの車なのでした。パネルには第1回目のWCC記念プレートから第5回までのプレートが張り付けてあった。今年もらった6個目はまだ取り付けて

いない。皆勤賞なのですね。次のチェックポイントはアンティーク屋でした。今まで経過したチェックポイントはどれもカフェバーのようなところで、カッコウよくてきれいでおしゃれなお店が多かったです。チェックポイントや道路上でWCC車と際限なくすれ違った。その度に手を挙げて挨拶し合うのは、とても気持ちのいいことでした。《ここはネイティブ・アメリカン(インディアン)の村なんだよ》とボブじいさんがちょっと脇をそれた道に入り、そう教えてくれました。《君ははじめてだろう。チェックポイントは向こう側だけど、君が初めてのアメリカだっていうからね。ちょっと寄ってみた。》素朴な建物が並ぶ。生活感というより、いわゆるみやげ物や的なる第3次産業(サービス業)に従事している雰囲気がありありとにじみ出ていましたが…。しかしありがたい、ボブじいさん。やがて昼食どころに着いてダグ、スティーブ、ボブじいさんと一緒に昼食をとりました。やはりアメリカ人ですね。ボブはじいさんといえど体のでかさに合わせ、それなりの分量をかき込んでました。グリーンピースやらモヤシのお化けの親戚みたいなのか…。モリモリ。僕もじいさんになっても体がでかいから、やっぱりいっぱい食べるのかな？昼食後、元々たらふくそうなお腹をしたボブじいさんと別れて今度はスティーブ氏のクライスラー・ルバロンに乗ります。最後の晩に歳を聞いたら33歳だということだったけど、結構若く見えた。でも物腰は静かな印象を受けた。ステレオタイプの陽気なアメリカン、Mrビル軍曹に比べれば大概のWCC参加者は物腰静かに見えたものだったけど！ボブじいさんよりは比較的、イイダの英語をヒアリングしてくれるスティーブとも色々な話をした。時折、撮影にいそしむ私に《俺のカメラでもそこんと一枚撮ってくれえ。》とよく依頼された。《スティーブはツインピークスやXファイルは見ていた？日本で結構流行ったんだけど。》《いや、見てない。》《では好きな映画は？》《1番はグッドフェローズ。2番目はスカーフェイス。》《おお、ロバートデニロとアルパチーノだね。》《そうそう、好きなのさ。》2つとも血の気の多いギャング映画。結構バイオレンスなスティーブ氏なのでした。ガソリンスタンドで給油する間も、後続のWCCの車両が何台も通り過ぎていきます。その度にピーピーとクラクションを鳴らし手を挙げて、給油中で止まっている僕らに挨拶をしていきます。幾つかのチェックポイントを通過し、やがてスペリオール湖の風景が右手に現れるはじめました。《Hye! いい景色だよ！》と僕が言うと、横を向いて《あ、ホントだ》と彼は車をターンし、芝の生える土手と湖の景観が見事なパーキングに駐車して《降りよう！》。ここで写真とビデオを撮影、今度作るであろうWCCのパソコン編集ビデオには、この景観は絶対挿入したいものだと思います。きらきらと水面、見えないほど遠い対岸、湖上の風に黄色い花が揺らぐ、夏の夕暮れとは思えないやさしく心地よい陽の光。なんて気持ちいいんだろう。《ありがとう、スティーブ》《いや、俺も君に言われなかったら気付かなかったからね。》やがて今日宿泊するホテルに着き、スティーブにチェックインを手伝ってもらいました。30分後に駐車場で落ち合う約束をして部屋に入りました。スペリオール湖に面したベランダ。ナイス・ビューです。カモメも飛んでいます。初めて見る東洋人でしょうか？随分と近くに来て凧のようにフラフラと滞空していて、まるで挨拶をしてくれているようです。「よう！こんちわ！ハハハハッ」と日本語で声をかけました。手早くシャワーを浴び「甚平」を羽織りました。きっとガイジンは喜ぶ(？特にビル軍曹みたいな人は！)と思って持ってきました。靴はサンダル。靴はスニーカー、スウェード、サンダルと3足持ってきてます。まったく大荷物でしたが、ホテルの部屋などはサンダルがさぞかし楽だろう



と思って持ってきたのは正解でした。スティーブと本日のアフタードライブ余興会場であるホテルにやってきました。私やスティーブの泊まるホテルから5分くらいの所です。ボブじいさんとダグもここは宿が違います。私の宿とも違うのです。なんせ参加人数は500人近くを数えているのですから、一ヶ所の宿には宿泊できません。分泊するのです。ああ、スケールが大きいなあ…。駐車場に車を止めると、一人の男性が近づいてきました。《...?》何々？名刺を見ると、地元新聞記者の方のようです。《貴方がWCCに参加した理由は？》《初めてのアメリカ旅行ですか？》等々質問があった後に、写真をパチリ。地元の新聞に載るんだあ、へえ。「甚平」を着てきて正解だったなあ。いかにも日本人っぽいシチュエーションだし。(?)“のら黒”のイラストを背負ってるけどね。《これは何ですか？》《ジャパニーズ・ミッキーマウスです。しかし彼は犬ですが。》と幾人かの方と受け答えしました。



フィリックスは猫でしたっけ？本日走行したチェックポイントで残らずスタンプをもらった方には、福引きの参加資格が与えられます。余興の開始前、ゲイリー氏に名前を呼ばれ拍手を受けましたので「あ、紹介した。」と思い、ベンチに登って帽子を振り「ハロー、アイムグラッチューミーチュー」とでかい声で言いました。みんな笑ってました。あと「ドウモアリガトー」とも言っとくべきでしたね。言いそびれました。もっと笑ってもらえたかな？詰めの甘さに切歯しました。ちゃんちゃん。そして本日の状況報告？や明日の日程のアナウンスの後に福引きが始まりました。くじを引くのはゲイリー氏の息子さんアレックス君です。(なんと彼はWCCのディレクターという肩書きを持っている！)次々と景品が当たるさなか、私はビデオやカメラを夢中で記録していました。みんな手を振ったり、ニコニコして応えてくれます。やがてくじ引きが終わり、当選しなかった大半の皆が「あ～あ、な～んだ。」という雰囲気おもむる、そぞろに引き上げていきます。そこに一人の品の良い老婦人が話しかけてきました。《貴方は乗ってみたい車があるのですか？》そんな意味だったと思うのですが、誤解しているといけないので夫人にパソコンで英文を打ってもらって翻訳にかけました。間違いのないようです。《オープンカーは全て愛している！》と打ち込んでお返事しました。そして夫人は文章を入力しました。《私達はカマロZ28の96年式モデルに乗っています。もしよかったら明日は私達と一緒にドライブしませんか？》これは意外なお誘い！そばにダグやスティーブが居たので、何やら状況を説明しています。夫人の旦那様もそばにいらして、話を始めました。結果、では午前中の一区間をイイダをサポートして下さい、という事でダグが仕切ってくれたようです。もちろんダグは僕に説明してくれました。それによると私は午後、ハンビーを乗ることになっている模様なのだそうです。でもわざわざ招待してくれるなんて、大変嬉しいことです。《ロイとコニーです。よろしくイイダ。》《お会いできて光栄です。ありがとう。ミスターロイ、ミセスコニー。》ああ...「お願いします」って英語で何て言えばいいの？判らない。でもわくわくしてきました。ゲイリー氏が《8時に一緒にメシを食おう。いいかい？》と聞いてきました。《もちろん。大丈夫です。》しばらくその場にいるとビル軍曹が来ました。昨日と違う女性士官を連れてきます。僕は、ビル自称ストロング・サージェント(強い軍曹)という称号を、彼となごむときは頻繁に使いました。その場にいたのはダグ、スティーブ、ビル軍曹、女性士官でした。僕はそこでビデオカメラを廻しながら、面白いことを言ってみようと思いました。楽しいリアクションが撮れるかもしれません。《ダグ、貴方はビートルズのメンバーに似てますね。え～...》《リンゴスター？》と一同。ダグは自分でもうなずいて笑ってました。《ビル、貴方はスティーブ・マックイーンに似ていますね。》そう《ジョンウエインにも似てるんだよ。》と彼。《彼女は...、彼女は...》と迷っていると。《シャロンストーンだ。》とストロング・サージェント。う～ん、化粧がチト濃

いケバ目の顔だからいいかもしれない！彼女は赤面してものすごい照れていた！照れるしぐさが迷彩服にそぐわず、かわいらしかったです。《ストロング・シャロンストーンだ。》という皆、笑っていた。《じゃあ、スティープは？イイダ。》とダグ。う～ん、う～ん???《居ないか？(笑)》とスティープ。《マイケルダグラスはどう？》とダグ。ちょっと違うかな？まあいいか....。



スベリオール湖が大きい！ばんざーい

余興のくじ引き大会



それから食事までの時間をダグと二人でしばらく過ごしていました。対岸の丘陵に沈む夕日を眺めているとダグが聞いてきました。《訪ねたいんだけど、イイダ》《何を？》《アメリカ人と出会い、景色に触れ、食べ物を食べ、君はこの旅で何を感じたかい？君にとってどういう意味があった？》という意味あいのことをシンプルな単語で紡いできました。ホントにこの人の英語は何故か分かり易い。《ああ、ああ、うん。けれども僕が言葉を知らなくてきつとうまく伝わらないよ。今は、でも日本からきちんと書いてEメールを送るからね。》彼も僕の言わんとすることを判ってくれたようです。《でもホントにみんな良くしてくれて、すごい嬉しいよ。来て良かった。》と言うと《うん、イイダ。僕達の方こそ君に出会えて嬉しいのさ！スティープにゲイリー、僕もね。》...なんか思わずじ～ん...ときてしまった僕。オレンジ色の夕日は対岸の山の向こうへ静かに沈んでいき、涼しくて綺麗な風が湖上を渡ってきた。



時間になってレストランに入ると、テーブルにゲイリー氏一家と幾組かのご夫婦が席についていらっしやいました。ダグラス氏が一緒に来てくれています。しばらくすると迷彩服のままのビル軍曹と今度は昨日見かけた21歳の女性軍曹が居ました。あれ？シャロンストーンは？ビル軍曹は《彼女はムービースターの誰に似てる？》と聞いてきたので《え～、ジュリアロバーツ。》と答えました。彼女は照れると言うより笑顔半分で、ちとむっつりしてしまいました。日本の女の子でも、たまにこういうリアクションする子って居るよなあ。(笑)ケバそうな先程の土官の方が、うぶっぽかったのが意外かな？—先ず、ビールで乾杯。ウエイターのお兄さんが、ウエルカムのご挨拶。オーダーを取る前に名物料理やお勧め料理を説明しているようだ。魚(どうやら鱈のようだ)や牛肉の話をしている。笑いが起こる。さしずめ、他にお魚のご希望があれば釣ってくるよ～ん。なんてリアクションに違いない、と密かに確信がありました。ウエイター君しばしおがしかの口上を長々と済ました後、下がるうとしたところヘイトレットに立っていたビル軍曹が帰ってきて《え～、何だった？もう一回喋りな。あ～ん？》とやり返した。これも皆笑っていた。何だか日本人だって、その場ではそう言いそうなギャグに僕もおかしくて笑ってしまいました。しばし歓談。ダグがその場その場の周囲の皆さんに、僕のプロフィールを説明してくれるので助かる。日本でオープンカー・サークルという車クラブを運営していること、ホームページへ連日画像を送って日本の仲間に状況を伝えていること、アメリカへは初めての旅で一人でやってきたことなどを伝えてくれました。同席していた方達はW C Cのスタッフであることを隣のご婦人に聞きました。《最初のW C Cには何台の車がエントリーしたのですか？》《最初は60台くらいでしたわ。けど次の年からは150台位のエントリーがあったわねえ。去年は170台よ。》てな程度は何とか話はできましたが、膝の上でノートパソコン(マック PowerBook1400c/183ev)は大活躍。難しい単語や、伝えにくいことはバンバン打ち込んで翻訳させ、会話も十分成り立ちました。さて、料理のお味はというと、全体的にはやや塩味が強い感じがしました。これは滞在中食べた料理、ほぼ全般に渡って感じた感想です。あと全体的に甘味も強く感じましたね。素材そのもので美味しいと感じたのは果物です。初日の夜にはスーパーで果物を数点買って食べましたが、一番のお気に入りは“ナンとかピーチ”です。(失念!)これは平たくぶつぶつ潰れている、小さな桃です。直径が5センチ程度、皮を手で剥いてむしゃぶりつきます。甘味と薫りは十分。次に良かったのはネクタリンです。(おっと、どちらも桃系か!?)リンゴはビックリするほど赤かったのに、味は今イチ。食べた品種が悪かったかな？ブロッコリーは何処でも生のまま出てきました。《日本でこれはボイルして食べるのが普通なんだよ》とダグに説明すると《ボイル?》《ボイル...》《ああ...発音は“ポオエオ”だよ》とまあやっぱりイントネーションって違うんですねえ。食事の最後にチョコレートがどっぴりとコーティングされたケーキがダグに供されました。なんと彼は今日は誕生日だったのだ!宴席の最中に出た話題を(ゲイリー氏だろうか?)即興でお祝いを仕立ててしまったのです。皆で“ハッピーバースデー”を唱和。ロウソクを吹き消すダグ。大分お腹いっぱいだったらしくて、半分ほどしか食べられなかったようです。お酒もしこたま入り、いい気分。夜も10時を廻り、お開きとなりました。ゲイリー氏にお礼を言って、ダグに宿まで送ってもらいました。車中《これはいい曲だな、イイダ》《彼の名はRyuiti Sakamoto. 僕の好きなミュージシャンなんだ。これをギフトするよ。我々の思い出の為に。この曲のタイトルはスイート・イリュージョン。(甘いまぼろし)》《ありがと、イイダ。大切にしよう。》高中正義のギターも入るポップで軽快なインストルメンタル。別れ際、自ら気に入った曲に引っかけ《スイート・ドリーム、イイダ》。《スイート・ドリーム、君もね。》 晴れ渡った青空と何処までもつづくハイウェイ、スベリオール湖の夕日、ロイ&コニー夫妻からの招待、ビル軍曹と好みのタイプに関して下世話な話、そしてダグラス氏の優しい一言。今夜も気持ちよく眠れそうだった。

#####

第三日目の奮戦記

#####

かなり早く目を覚ました。3時です。点けっぱなしのテレビは《今日もよく晴れるよ。》とウエザーインフォメーションを流しています。ホンのちょっぴり湖の畔が朱に染まってきていました。爽快な酔心地はシャツとトランクスー丁の僕をベットの上に押し倒してしまったのです。シャワーも浴びずにトップリと寝てしまいました。シャワーを

浴びて、ホームページやメールをチェックします。メールも何とか受信可能な状態にし、何人かの方にお返事を書きました。アメリカからのやり取りに感激されている方もいました。やっぱりパソコン持ってきて良かった。楽しいものですね。ところで昨日は東京で作成してきたミニステッカーを随分と配ったので、無くなりかけてしまいました。そこで



幸いにもプリンター(Apple Color StyleWriter 2200、キャノンB Jの一番小さいヤツと似てます。)を持参していましたので、普通紙でもって臨時にプリントアウト、ハサミでカット。これをビシバシ配ることにしました。シールはこの方って思った方のみに配ることにします。そして夜が明け始めました。月と対岸の暁をカメラに収めました。今年中にはパソコンビデオとしてお目に掛けていただく方もいらっしゃると思います。8時にはウィリアムズ夫妻(ロイ&コニー)が迎えに来てくれました。昨夜、懇談会会場で会食をしたホテルへ到着。今日はここから皆、スタートです。僕はウィリアムズ夫妻と一緒にスタートです。次のチェックポイントでは「ハンビー」に乗り換える予定です。昨日同様、一台ずつチェッカーフラッグを受けてスタートッ!! スペリオール湖の畔、一路北へ北へと向かいます。車中、夫妻との会話は楽しいものでした。《このZ28はコルベットと同じパワートレインなんだ。トルクがあっていいぞ。後で君も運転しなさい。》とロイ。《イダは仕事何

をしているの?》とコニー。彼女はレストランを数件経営していて、お料理が好きらしい。ロイは自分の会社のディレクターです。波止場街で車と別れてスペリオール湖を渡るフェリーの中でコニーは語ってくれました。《私は12歳の時からイギリスに文通友達が居ます。去年初めてイギリスに行って、彼女に会ってきました。今、私達が来ているTシャツはその時のお土産で、お気に入りなのよ。》《12歳から?ワオ!グレート、Good!》《その時、レンタカーを借りて走ったけど日本と同じで左側通行で右ハンドル。やっぱりチト恐かったなあ。》とロイ。イギリスの交通法を取り入れたのが日本ですからね。対岸はWCCのチェックポイントが設定されている場所でもあります。当然、件の名札を付けたWCC参加者と沢山すれ違いました。《イダはモーターサイクルは乗れるか?》《問題ないです。》レンタルバイクに乗って3人は景観がよいとみやげ物屋に紹介されたビーチへ向かいました。スクーターに乗ること片道15分はたっぷり走ったでしょうか?肌寒いぐらいの風で、とても夏の気候とは思えません。今は秋だ、秋だ、秋だ...秋なん

だぁー!!と思ひこんでも違和感のない陽気でした。避暑には最適ですね。ビーチで記念撮影。何せ淡水湖なので海臭くありません。泳いでいる人も居ましたが、水は冷たかったです。帰路のフェリーの中でかなり若い年代のWCC参加者と乗り合わせました。なにげにこちらの様子を興味深そうにしていました。デタラメ英語でもぼちぼち通じることが判り、すっかり調子に乗っていた私は話しかけてみました。その場にいた青年はジェロームとジョセフという二人でした。まだ20代な筈です。10代だったかも。フェリーの短い旅が終わり、昼食をとりました。ダブルバーガーとボールサイズのミネストローネ・ニューヨークスタイルをオーダー。ミネストローネの味が大変良かったです。本来ここでダグと「ハンビー」に落ち合う予定だったのですが、結構時間を過ぎてても合流することは叶いませんでした。やむなく次のチェックポイントへ向かうことにします。《ここから君がドライブしてみなさい。》とロイが交替。シートポジションやミラーの調整をバッチシにし、道路へ



滑り出しました。もちろん、右側通行、右側通行、右側通行...とうっかり左側を走らないように念じながらです。「ああ...

やっとこの瞬間にたどり着いたんだ...。」思えばイベントの存在を知ってから一年近い歳月が経ち、僕の待ち望んでいた山場の一つがこれに違いはありません。...アメリカのハイウェイで車を運転させてもらう...。叶ったのです。夢の一つが。優雅に走っていきます。《ここだっ!踏んでみるおっ!》とロイが時折、煽ってきます。(笑)“鹿注意”の看板。時折、通り抜ける別荘街。なだらかな丘陵を幾つも超えて行きました。好きなCDを聞かせてもらいながら...。オープン走行ですっかり気持ちよくなったのは久しぶりのことでした。チェックポイントも廻ります。単独で降りて店に入り、スタンプをもらいます。何かおばさんが喋りかけてきます...が。車に戻ってから「ホニャホニャホニャッ!」とデタラメな英語でおばさんの雰囲気をも真似し(何言ってるか解らなかつたよ~ん)て感じて両手を挙げて肩をすぼめてみせました。かわいい笑顔でウィリアムズ夫妻は笑っていました。やがて到着した最終地はフェリーに乗った波止場町でした。独り車に残ってしばし昼寝をしたためました。やがてダグと一緒に夫妻が戻ってきてダグが僕に謝ってます。《やあ、ピックアップできなくて悪かったなあイダ...。》《ううん、問題ないよ。凄く楽しんだよ。運転もしたんだ。》やがてコニーは一枚のクロスを

夫妻、お気に入りのTシャツとスペリオール湖とノッポなジャパニーズ。



を拵げて僕に見せました。《これは五大湖のお城をあしらった刺繍のクロスよ。それとこれは本屋で見つけたアメリカ料理の本です。これはとってもいいレシピーよ。これをあげますね。》胸が一杯になり《ありがとうコニー》《イダ...》極自然に、感謝の気持ちで自分の母と同じくらいに小柄なこのアメリカ人女性を抱擁しました。思えば実の両親と同じ位の二人...日本人は自分の母親と抱擁しあう機会なんて考えられないでしょうけど、この時は本当にそんな仕草がポロリと出てしまいました。温かいものが胸を静かに満たします...。(^^) 翌日は探しても会えず、これでお別れとなってしまったのですが...《レイター!》《レイター!》「後でね」と挨拶を交わして夫妻と別れました。それからダグと夕暮れの街を彼の愛車までぶらりと歩いていきました。コニーの心尽しを



きっかけに、その時僕は穏やかで心地よい優しい気持ちに満たされていました。とっても気持ちがふわふわとしてしまっています。なんて気持ちがいいのでしょうか。わずか三日間で出会った人たち、温かい言葉と接してくれた参加者達、素晴らしい景観、そんな余韻でダグとの会話すら上の空でした。気持ちがふわふわ、ふわふわ。ただ《今日は楽しかった？ 夫妻はどうだった？ 良くサポートしてくれた？》ということをお話した気がします。車まで着くとダグは《ハイ、お土産。》とキャップを一つくれました。ご近所ミルウォーキーの地元フットボール(NFL) チーム “ Packers ” のキャップなのだそうです。《ありがとう！》彼も一つ買っていたので、それから先は二人してお揃いのキャップを被っていました。彼に記念のサインをお願いすると { Good Luck Iida Doug Kay } と書いてくれました。

しかしそれは翌日の別れ際の事です。やがてパレードを行いながら、大テント演芸場へ向かう時間が近づいてきました。波止場町はオープンカーでえらい賑わいです。皆、出発待ちをしているのです。お巡りさんも交通整理に出ています。あっ、ストロング・サージェントを見つけました！ しばし本日のご報告。《イイダ、これが貴方へのプレゼントだ。》昨夜、会食の席で、軍曹がくれるといていたプレゼントを頂きました。昨夜の時点では《何をくれるんだい？ ハンビーかい！》なんて言ってストロング・サージェントにブルルルル！ なんてかぶりを振らせる冗談を叩いたのですが。それはTシャツでした。ははん。州軍募集中！ ってシャツだ！ 《何かサインを下さい。》と自分の背中にシャツを載せてかがみしました。私の背中の上でビル軍曹は一言書いてくれました。周囲のみんなはその様子を見てほのぼのと笑って、パシャ、パシャとフラッシュを焚いて写真を撮っていたようです。ゲイリー氏も一枚納めていました。ハンビーの前でも軍曹と記念撮影。軍曹は日本から持ってきたOCC特製うちわを手にしてます。ほのぼのとした気持ちが二重にも三重にも拡がっていきます…。シャツにはこう記されていました。 { To My NEW TOMADACHI! STRONG SERGEANT BILL DANISON } くれぐれもそれが “ TOMADACHI ” だったことを申し添えておきます。(笑) ダグの車に戻り、出発しました。そして出発…その光景は「ファンタスティック！！」その一言でした！ パレード走行で出発する我々に、沿道の街の人や観光客はヤンヤ、ヤンヤの声援を浴びせます。手を振る人、ピーピーと口笛を鳴らす人、拍手する人！ お祭り感が一気に盛り上がります！ やがて小高い山の中腹にあるテントに到着しました。わずかな時間であったと思います。駐車場はWCCご一行様の車で一杯です。屋台でビールにつまみ、ファーストフードやら…。皆、思い思いに歓談をしています。自分もハンバーガーと一緒に喝いたのどビールをバカスカかっ込み、あっという間に上機嫌となってしまう。軍曹やダグ、スティーブ、ポブじいさんにビールを奢りまくってます。酔いながらもゲイリー氏に謝辞を述べ、この旅が素晴らしかったことを報告。そしてみんなと記念撮影！ フィアット乗りで真っ赤な大きな帽子を被った陽気なトラビスさんとも帽子を取り替えっこしてパチリ。幾人もの方々が《一緒に写真を撮ってくれ》と寄ってきました。一つ一つに嬉しい気持ち一杯で応じさせていただきました。



もうすぐパレードが始まる！ 短い時間でしたが、OCCでも体験したことのない興奮のある一瞬でした。



一風変わった車倶楽部、活動中！
<http://www.big.or.jp/carcircle/>

これが配った名刺。



テント駐車場はWCCの車で一杯！

やがて演芸が始まったようです。ゲイリー氏の奥方メイが《こっちの方がイイ席よ。》と僕のチケットを替えてくれたのですが、芝居を見るよりも何だか

一人で浸りたい気持ちになっていました…。冬はスキー場であるその斜面を登り、ライトアップされたテントシアターと暮れゆく湖のほとりを走る車のヘッドライトを眺めていました。

夕日が奇麗。明日は正午で散開とのこと。そしてシカゴの夜景に出会えるんだ…。今夜が最後の盛り上がりかな？ そうだね、WCC98最後の夜だもん…。テントでは音楽や漫才？ で盛り上がってます。

結構、寒い。北に近いから？ でも、ここまでの旅の色々な場面を思い起こすと、ハートはとても温かくなりました…目頭が熱くなってきて、思わずポロポロと涙が…。来るまでと初日の夜の不安が嘘のように、今では豊かな充実感に包まれています。「ここへ来てよかったんだ、不安を吹き飛ばして来てよかった、僕は本当に歓迎されたんだ…。」酔ってたのかも知れませんが。



すっかり暮れた辺り。ライトアップされたテントシアターと、湖のほとりを走る車のヘッドライトを眺めながら…。

た、奥さんがお綺麗な人だったっけ。《ごめんなさい。貴方の車は記録してません。でもホームページには来て下さい。全てのスケジュールの画像が載っていますから。》《OK!必ず見るよ。》と別れました。残念ながらウイリアムズ夫妻の姿が見えません。Tシャツを渡すつもりだったのに、心残りです。例の若者3人組に渡すには一枚足りない...彼らには冗談としてアレをお土産に渡すか...。見つけた彼らはとてもチャーミングな女の子を連れていました。ニックだけ見あたりませんでした。《イダ、彼女はアンだよ。》とジョセフが紹介してくれました。《お会いできて光栄です。車は何をお乗りですか?》《母親のブルーカラー・セリカコンバーチブルです。》そういえば2日前にビデオにも納めたっけ、かわいい子がいるなあと思ってたんだ。もちろん彼女と写真を撮って、そそくさと2人を部屋の隅に連れていきました。《ニックは何処?》《わかんないけど、そこら辺に居ると思うよ。》と彼ら。《これは僕からのプレゼントだ。これは日本製の“お守り”だ。僕はこれを使うチャンスを持たなかったけど、君たちはゲットして欲しい。》“お守り”を手渡された彼らはククク、と笑っていた。ニックの分も渡しておく。《あ～、でも気をつけるんだ。何故ならコレは日本製だ。小さいんだ!》と言うと《ダッハハッ》と大うけて彼らはその場を足早に去っていきました。また後のチェックポイントで会えると思っていたのですが...彼らとのお別れはそれで最後でした。ポブじいさんも居ます。彼はメールアドレスを持っていませんので、取りあえずこの場でお礼は言っておこうと思いました。《ポブ、この旅は大変素晴らしかった。僕は貴方が沢山長生きしてコルベットを楽しむことを願うよ。》拙い英語は3回も繰り返したところで、やっとこさ通じたようです。ポブじいさんの表情がパッと明るくなったので、伝わった!と解りました。《ああ、ありがとうイダ。君もだ。》彼が目を少し、うるうるさせていたのは気のせい?このパワフルで身体の大いアメリカ老人に出会えて良かったです。やがて抽選にあたったダグが色々と景品を抱えてロビーに上がってきました。《ツイてる男だねえ。》と一声掛けました。出発となりました。雨は止みません。今日はトップからハンビーに乗せてもらおうかと思って志願しました。《僕ハンビー乗れる?》《一緒に行こう!》と軍曹は快く招待してくれました。今日はチェッカーフラッグもなく音楽もなく各車はただ、ホテルのエントランスでナビシターを黙々と乗車させて出発していきます。次に合流するところはあるのか?最後のお別れセレモニーは在るのか?言葉の不自由なのはこういう時こそ困るものです。次の予定が把握できないですから。ゲイリー氏とも最後の挨拶をしいいものかどうか解らず、立ち去ってしまいました。ハンビーに同行してきたのはダグ、ポブじいさん、スティーブの3台のみです。例のジュリアロバーツ似の21才軍曹はダグの助手席に座ってます。



雨は少々強く降ってます。乗り心地は流石ジープだけあって固いこと...しばらく軍曹と雑談を交わしていると、ボン!とってフロントウインドウと幌の接続部分が外れてしまい、10cm位開いてしまいました。慌てて二人で幌を掴み、軍曹もしばらく片手で押さえながら走る羽目になってしまいました。開けた場所で路肩に止め、スティーブやダグ、僕も手伝って、一先ず幌を固定しました。しばらく快調に走っていると、バサァ!とって押さえる間もなく、前部の幌が開ききってしまったのです!幸い雨は小降りになっていたもので、それほど雨は差し込みません。もう軍曹も止まらず走ることにしたようです。ニヤニヤしながら《楽しい?》と軍曹。

《Yes! Very exciting experience!!!!!!》と僕。軍曹は笑ってます。

彼はホントに楽しい人です。典型的な陽気アメリカ人なのです。車中ではビートルズやスキヤキソングを二人で熱唱していました。《ベトナムには行ったの?》当然30余年前の戦争のことですが。《行ったよ。19歳の時でえ～と、君が3歳の時だね。ダナンに居た。》《わー、最前線で大きな拠点だった街だ。19歳といえばベトナムで最も多かった兵士の年齢なんですよ?》明るい軍曹は僕の問いに返事はしましたが彼の暗い表情を見て、人間誰しも聞いてはいけないことがあるんだなあと思い、話題を変えました。《ところで子供さんは何人ですか?》ガソリンスタンドでハンビーはダグが運転することになりました。ビル軍曹はダグのMITUBISHIへ乗り、僕も助手席に移りました。そこで久保田利伸を聞いていると《ジョージ・マイケルにチョイ似だね。ウ

ン、チョットだよ。チョット。》と軍曹。ノリノリなのはいいけど、ハンドルから手を離して踊らないでくれたまえよ...。まあ僕も一緒に笑いながら踊ってたけど。ダグの運転するハンビーを撮影しました。ハンビーの値段を聞いたのですが確か日本円で7~800万円位だったと思います。ディーゼルですが“ガロン”や“マイル”を換算すると、燃費はリッター5キロ程だったです。雨はすっかり止んでストロング・サージェントと、ずっとずっとオープン走行を楽しみました。

途中、街のカフェでランチを取りました。メニューはじゃがいも入り炒り卵、ペスカトーレもどき、チョリソとじゃがいものソテー、ソーセージ、フライドチキン、チョリソ、正体不明のお好み焼風の焼き物、果物、パン、という品揃えで700円程度ですがピッフェ形式の食べ放題です。ビールも頼んでたら頂く頂きました。ビル軍曹が《もつと食べるよ。》なんて言ってますが絶対、軍曹より僕の方が量は食べてます。晴天下のドライブは続き、なんと到着したのは初日に宿泊した「ラマダホテル」でした。他の車は参集している様子はありません。《集合地点はもう無いの?》とダグに聞きました。そしてやはり流れ解散となっていたのを知りました。なんだかあっけない幕切れに感じます。ここで軍曹とスティーブにお別れの言葉を交わしました。《来年の予定は?》とスティーブ。《来たいとは思ってる...。》という位の返事しか出来ません。《君に会えてよかった。元気で。》と軍曹。僕が軍隊式の敬礼をしてみせると《おや?君は日本軍の軍曹かい?》とスティーブ。《いや、將軍さ。》と返すとみんな笑ってました。お二人と固い握手。知り合えてよかった...。本当は知り合ったみんなに沢山のお礼や感激の言葉、旅の感想などを語りたいのに、言葉を知らないばかりに饒舌に語ることが出来ません。もどかしいものです。そして出発。ダグは僕にMITUBISHI3000GTのステアリングを委ねてくれました。ハイウェイに乗り、途中スティーブのルバロンと別れます。クラクションを鳴らし、みんな大きく手を振って道に分かちました。2度目の運転。しかし今回はハイウェイなので、ギアチェンジが少なくてチョット退屈。できれば一般道をギアをガチャガチャとかき混ぜながら走りたかったかな?全体的にスピードは、追い越し車線で120km前後でしょうか。走行車線は80km~100km程度。「意外と飛ばさないもんだなあ。」といった感想です。GTOオープンバージョンはとても運転しやすい車でした。安定感もあるし





視界もいい。運転している感覚では160kmは楽に出せそうでしたが、やはり隣に乗るオーナーの手前、ちょっと控えめにしました。(^^;)《ダグは何故、この車を選んだの?》《ハードトップだから。》《ベンツのSLKも同じようなハードトップだよ。》《最初はSLKも考えていた。でも少しパワー不足だろ? こっちはボディサイズが大きいのも魅力さ。》と語っていました。

シカゴまでは5時間掛かるのだそうです。飛行機で1時間の距離ですから、やはりワーソー～シカゴは東京～大阪位の距離になるでしょうね。《シカゴで一番おっきいホットドックを食べたい!》とダグにリクエスト。《僕が美味しいと思う“ホニャララ?”というお店に行こうと思ってる。》《あとビールね!》途中サービスエリアでとことところ小休止を挟みながら進みました。《トライさせてくれ～。》とセルフサービス給油を初体験! といってもダグがボタンを押してもらって、ノズルを握ってるだけだったかな? 今日本でもあるけど不人気らしいですね。日本でのガソリンの値段やスタンドで受けるサービスなどもお話ししました。お勘定は隣のスーパーマーケットのレジで済ませるのです。



シカゴへ向かう帰路、夕日とミシシッピー河の素晴らしい景観も見ることができました。あれだけ賑わっていたイベントなのに...今はダグとふたりで原っぱの広がる土手に腰を下ろしてアメリカで何度目かの、そしてしばらくは見ることはないだろう夕日を静かに眺めています。夕日のライトアップをバックに、祭りの後の寂寥感をともなって静かに降りてくる旅の終幕でしたが充実した時間をおくったハートの余韻がやんわりと包んで、しくしくとした寂しさを少しも感じさせずにいました。でもまだ僕の心をウキウキさせるものが在ります。それは今夜シカゴとの出会いです。まだ終わってはいないので。日は暮れました。



運転を替わると、助手席で原稿打ちと画像のセッティングをしていました。今日は夜更かしにならうから、ダグには失礼してチョット睡眠。(でも彼も僕の運転中、少し寝てたけど)大規模な渋滞もなくシカゴのオヘア空港までたどり着きました。空港の夜景も遠くに見えます。神奈川の横羽線から見える羽田空港って感じがな? 強引かな? やがてキラキラとしたシカゴ摩天楼が眼前に迫り、車はその足下をすべっていきます。大きいビルも沢山あります。西新宿に群集するホテルやビジネスビルよりも数が多く、スケールの大きさを感じました。水辺の都市の夜景の中では一番スケールが大きい夜景でした。それはそれは噂に違わぬ素晴らしいものでした! ここ五大湖はミシガン湖のほとりの脇を通ります。ボートが沢山浮いてます。《ボートが沢山ある!》と言うと《みんなサクセスした人のものサ。》とダグ。《ステイタスなの?》《そう、とつてもステイタス。》《アメリカ人は車は何がステイタス? キャデラック?》《最近ではキャデラックではないね。メルセデスやレクサス(トヨタの上級車種)が人気ある。》湖畔に広がる公園のようなところを散歩しました。いやいや、まるでお台場海浜公園ですよ!! 横浜のランドパークにもそっくり! 観覧車があった。《あれは最近できた大きい観覧車だ。》とダグが言うと。《へへ、横浜にはもっとおっきなのがあるよ。あれの2倍はあるかもね。》とちょっと自慢? 随分広いので全部散歩するのは切り上げて、ホットドッグ屋を目指すことにしました。残念ながら夜遅かったので、お目当てのホットドッグ屋は閉店! ちょっと場末の屋台で我慢しました。黒人の酔っぱらったおじさんが、そのスタンドでクダをまいていました。そのおじさんに僕は口調は控えめに、日本語で挨拶しました。(でも怖いから目は合わせない)何を言ったかという...うおっと、ちょっと言えませ～ん。おじさんは意味は分からなかった筈ですが、しーんと黙って出ていきました。まだお腹に余裕があり、次にピザを所望したのだけれども既に夜の11時、ダグは心当たりを車で廻ってくれましたがどこもおしまいようです。他にも在ったかも知れませんが、場末過ぎるのも危険とダグが判断したのかもかもしれません。食べ物はあるから、今度は街の美術巡りを彼は提案しました。ピカソやシャガール、何とかさんというシュールリアリズムの芸術家の巨大なモニュメントが数キロ圏内に点在しているのです。ペリカンをモチーフとしたピンク鉄骨の巨大なレリーフが気に入りました。それらは作家達がシカゴで制作? シカゴのために制作? したということをダグは言っていました。《このワットタワーはシカゴの街が18??年に誕生したとき、初めて造られたビルディングなんだ。》白くライトアップされたこじんまりとしたビルです。他には赤煉瓦ビルも多く、それらもシカゴ名物の一つであったことを思い出しました。《このシカゴリバーの上流にはシカゴ駅がある。駅から水上バスに乗って出勤する人も多いんだよ。》日本じゃ隅田川を水上バスで上って出勤する人って居るのかな? その橋のほとりに立つビルディングは《これはシカゴで一番発行部数の多い新聞社だ。》と教えてくれました。《あのビルは何のビル?》夜の12時に煌々と窓の明かりが点いている巨大なビルがあります。ただ者でない雰囲気がありました。《あ、れ、は、IBMの本社ビルだね。》《IBM! IBM...IBM...。成る程ねえ、忙しいんだ。成る程、成る程。》と納得している僕。ダグは笑ってました。《さあ、家に行こうか。》とチョット郊外を出たところ、僕の何気ない話題にダグは何か思い出しました。何処か名所を思い出したようです。おとつと、と間もなく道を逸れて周囲はどんどんと下町っぽい雰囲気だ。《ここら辺は危険?》《うーん、ちょっと危険。》うひゃ～。そういえばシカゴ市街でも歌舞伎町のような雑踏で、ちゃらちゃらしたおにいちゃんやおねえちゃんが居るようなブロックは屋根を閉めて走ってたな。おーコフ。(++) 連れてきてくれたのは、あのシカゴ・ブルズも試合をやるといふ体育館でした。到着。入り口には歴史に名を留めよう、かのスーパースポーツマン、マイケル・ジョーダンの巨大な銅像が置かれています。夜も遅いせいで人っ子独りいません。暴漢がウロウロしてなくて助かりました。(笑) 自分の診療所の前を歩いて案内してくれました。そこから間もなく、彼の家に到着。家人が誰かいるかな? と思ってましたが誰もいませんでした。何となく遠慮して結婚しているかどうか聞きませんでしたが、お宅は自宅というより何かリゾートマンションのような趣がありました。こざいでした。《イイダの部屋はここ、トイレとバスルームは私のところとは別々になっているから。》きちんと布団が用意されているところを見ると、やはりどなたかが一緒にお住いなのかな? 日本から持参した「OCCシアター1」を見てもらいました。《これは君がパソコンで編集したの? 素晴らしいね。あつ、この車は何? おっ、この車は?》と、日本ではポピュラーだけど、アメリカでは珍しい車種に見入ってました。電話回線をお借りしてデータをアップロード、用意していただいた布団にごろりとコロがって休んだのは午前3時過ぎでした。流石に疲れもあって数分と経たず、いびきをかいていたと思います。



夜景もホットドッグも良かった、シカゴ。歯医者さんは僕のために、明日の午前中の診療をキャンセルしてくれたのでした。疲れているだろうに一生懸命、深夜のシカゴをガイドしてくれた。有名アーティストのモニュメントやビジネス街、超ミニスカのケバいおねえちゃんが手招きする裏通り、シカゴリバーにライトスポットが素晴らしいワットタワー…。深夜のドライビング、楽しかったよダグ。お疲れさまでした。お休みなさい。



#####

奮 戦 記 最 終 章

#####

朝は前夜頼んだ通りにダグが7時に起こしてくれました。こちらでは毎日が興奮の連続で、朝なんてぐずぐず寝てられないって気持ちで、朝はいつもパッチリと目覚めが良かったです。最後の日を迎えた今朝も気分爽快。着替えて荷物をまとめていると、部屋に独りの女性が訪れました。ダグの奥さん？ではないよねえ...？実は昨夜、就寝前に冷蔵庫のドリンクを頂いたときに、子供と奥さんの写真が貼ってあったのですが、どうも写真の人と違うような気がでもヤケに熱いキスをぶちゅぶちゅと交わしているぞお。(^ ^ ;;;) やっぱ奥さんかなあ？アメリカの方に家庭の事情なんかは不躰に聞かない方がいいと思っていたので、これは最後の最後まで聞くことはありませんでした。それにしてもあからさまなブチュブチュ、ベタベタ...流石に私も戸惑ってしまいました。ダグと彼女(?!)にOCCのホームページをノートパソコンで紹介しました。しばしくつろいだ後に出発。3人で動くため、車は3000GTからクライスラー?? の4人乗りオープンカーに乗り込みました。この他にGMのワンボックスカーも持っているとのことでした。シカゴのオヘア空港まで雲一つない空もお見送りです。本当に最後までお天気には恵まれました。自称「晴れ男」の面目躍如といったところ。車の中ではダグが奥さん(?!)との会話に夢中。相変わらずカラリとしたU.S.の夏風に当たり、ポケーっとしながら対向車線の車をチェックしていました。アメリカは本当に沢山の日本車が走ってます。アメリカの外車としての登録台数は日本車が一番なのではないでしょうか？ハンダ(ホンダのアメリカ発音)はご承知の通りアメリカでは一種のステータスを確立していますので言うには及ばず、RX7(旧型)もよく見たし、日本車の単車種として一番見た気がするのは三菱エクリプスの新型です。一台参加してましたし、街中でもオープン、クーペ版とかなり見ました。日本でも左ハンドルで売ってますよね。なんとマスク(よくフェアレディZがやってる皮のフロントマスク)をしているエステイマがいました！さて今年で6回目を迎えたWCC参加車両の状況ですが、アメ車が圧倒的に多く古い型と新しい型は半々くらいでした。(何故コンバーチブルクラシック?)アメ車の車種として多く感じたのがコルベットとクライスラーの見たことのない4シーターのコンバーチブル。次いで多いのは日本車のように思います。セリカが3台、リーザ？カルタス？スパイダーが一台。ユーノス数台。新型は一台のみ。次にイギリス車ですが、ジャガーとトライアンフ、オースチンカニオン。独車陣はベントンは旧型SLが数台。ビートル1台。ポルシェはボクスターのみ。911は零！BMW旧3が一台。イタリア車はフィアットですが車の名前はわかりませぬ。あと参加車両ではないですが、街中でニュービートルを結構ちらほら見ました。ちなみに一台も見なかったのはMG-F、TVR、フェラーリ、スーパーセブン系です。来年はまたきっと参加車両が増えるのでしょうか。ほいほいと毎年行けるものではありませんが、是非今後の動向を見守りたいイベントです。これで興味を持っていただいた方は、是非行ってみたいものです。言葉なんて心配ないですよ！あと関係無いですが、最近日本で流行っている女の子の真っ赤なぴたびたのロングパンツと“見せブラ”ってやつですが、こちらでも結構はやってました。田舎の女の子からシカゴの街中でジモティ？観光？の若い子で、ぴたびた赤パンツはそれほどでもないですが、見せブラはかなり普及してました。アメリカのファッション雑誌や芸能人が流行らせ始めたものなのかもしれません。(^ ;)

空港ではダグのサポートのおかげでカウンターやゲートなどを戸惑うことなくパス。税関も抜けてお別れとなりました。《旅の安全を祈ります、イイダ。》《ダグの健康と仕事が順調であることを祈ります。ありがとう。》長くて大きな通路を歩きました。途中振り返ると、彼はまだ見送ってくれていました。手を振り合いました。そして今度は振り返らずに去って行きました。今は寂しい気持ちというよりも、満足感と無事に帰路に付くことができた嬉しさで一杯です。間もなくこの旅はゴールのチェッカーフラッグを受けるのです。午前10時。テイクオフの時が来ました。僕の嫌いな「ゴウ〜ン」と車輪が機体に格納する衝撃がやってきて、様々な出来事に出会い、感銘を受け、忘れることのない思い出が刻まれた土地から(しばし?)離れてしまったことを伝えました。不安だらけだった旅は終えようとし、今は爽快な気分が満ち足りています。でもこれから僕にはやるべきことが沢山生まれました。東京に帰ればきっと出会った人々から、幾つかメールがきっと届いているに違いない。ゲイリー氏にもお礼のメールを書かなくては...。日本の仲間にご報告しようかなあ...。仕事で出張も入っているんだっけ。あと、あれとあれをしておかなきゃいけないし。忙しいなあ...。きつとこの旅の余韻も、日々忙しさの垢にまみれて、心のどこかに置き忘れてしまっただろうなあ...。でもこんな経験は、これから自分にとっての先に幾つあるかは解らないくらい稀少なものだったなあ。馴れない海外旅行を独りで制覇できたこと、やっぱりこの点のインパクトが大きかった...。お仕着せツアーなんかじゃなく、みんなの輪の中に飛び込むんだっていう、自分の信念に基づいた旅を敢行できたこと...でもいつかはまた、訪れればいいんだよね！

いつでもみんなとはすぐにお話できる電子メールだってあるんだから！

そう...この夏...アメリカを訪れることができ、本当に良かったと思う



Good by ! Wisconsin 1998 summer. Good by ! America 1998 summer.



Good by ! Friends ! See you !



Thank you for wonderful memory.

あめりかイベント奮戦記(了)



『あとがき』

この旅を次回はオープンカーフリークな貴方にお勧めいたします。数百台のオープンカーが何日も掛けて泊まり歩きながら旅をする...こんなイベントがあることを知らされてオープンカー好きで、当OCCにたずさわる自分としては、応えようもない魅力を感じたのが一年前でした。そして待ち遠しく待った今年、その想像以上の楽しさを味わうことができました。もしこの下手な文章を読んで下さった貴方が、私と同じ様なワクワク感を抱いてくれたのなら、貴方にも私と同じ様なプレジャーを体験して欲しいことを願って止みません。今度は貴方が訪れてみませんか？（別に報告文は書かなくていいですよ。笑。）

言葉は雰囲気を出すために流暢に意識しましたが、私は決して格好よく喋れたわけではありません。知ってる単語を一生懸命並べて意志疎通に汗かき、ベソかきでした。でも問題ありませんでした！喋れない人にはそれなりに向こうの方も対応してくれます。ゲイリー氏も「貴方の紹介で来る日本のゲストを楽しみにしているよ。」とおっしゃって下さっています。それと私の出会った仲間達や、他の参加者達もきっと貴方をもてなしてくれることでしょう。

今回の旅程は、成田8/12夕方発～8/18夕方着で機内2泊、本土4泊。費用は航空費、宿泊費、WCCエントリーフィーなどを含め、私のケースで30万円程度でした。食費、みやげ物代を含めても35万円は切っていると思います。8月でハイシーズンな為、航空機は多少割高につきました。尤も距離も遠いので妥協できる線だと思います。往復で17万円。もちろんエコノミーです。もし貴方が彼の地に赴こうという意志があれば、当然私も最大限の手助けをさせていただきます。日本にも相談窓口となっている会社がありますので、そちらから先方へ十分連絡が取り合える手はずになっているので、ご紹介します。来年も夏に開催される予定なのだそうです。一生に一度の有意義な体験が得られることを保証いたします。お問い合わせもどうぞお待ちしております。

滞米中はデジタルカメラで撮影したイベントの様様を「オープンカー・サークル」東京版ホームページで連日中継いたしました。現在も掲載中です。デジタルカメラオンリーの画像も掲載されています。機会がありましたら、是非ご覧下さい。もちろんフィルム写真も沢山撮ってききましたので、ご縁のある方にはお目に掛けられると思います。

最後までつまらない文章をお読みいただき、ありがとうございました。拝読、感謝。

素晴らしいイベントを企画なされたGary Knowles氏に敬意を表します。

【ウイスコンシン・コンバーチブル・クラシックのホームページ】

<http://www.wiautotours.com/html/welcome.html>

【オープンカー・サークルのホームページ】

本部：<http://www.big.or.jp/carcircle/>

三重県支部：<http://www.e-net.or.jp/user/barikiya/occ>

大阪府支部：<http://www.bigfoot.com/bluering>

Eメール：carcircle@big.or.jp

レポート：1998年9月 オープンカー・サークル主宰者

東京都葛飾区 飯田正明 FAX 03-3603-7635